

みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



白神山地・岳岱周辺のブナの実 [提供：藤里森林生態系保全センター]

特集

令和3年東北森林管理局長年頭あいさつ [東北森林管理局長 柳田 真一郎]
今年度の活動を振り返って [朝日庄内森林生態系保全センター]

CONTENTS

■美しい森林づくり

天正の滝自然公園と山女の森にて…………… [秋田森林管理署湯沢支署]

■我が署の名所

平庭高原－日本最大規模の白樺美林－
(岩手県久慈市・葛巻町)…………… [三陸北部森林管理署久慈支署]





令和3年

東北森林管理局長 年頭あけ語り



東北森林管理局長 柳田 真一郎

謹んで新春をお祝い申し上げます。

皆様におかれましては、平素より、東北森林管理局の業務運営につきまして格別のご理解とご協力を賜っており、まずことに対し、深く感謝申し上げます。

まず、新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けられた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。新型コロナウイルス感染症拡大は、社会生活、経済に多大な影響を及ぼし、林業・木材産業業界においても木材需要の落ち込みなどにより例年に対応を迫られました。東北局においても年度当初においては地域の企業活動・雇用を確

保するよう各種事業の早期発注を進め、その後の地域における原木流通動向を把握する中で、事業の一部保留、木材の搬出を伴わない事業への組み替え、各種行事、会議のWEBでの開催・延期・中止など関係する皆様にご理解とご協力をいただき取り組んで参りました。

また、昨年も台風や前線等に起因する災害が全国各地で発生し、7月豪雨では山形県を中心に大きな被害が発生しました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。東北局としましては、災害発生時には山形県と連携してヘリコプターによる被害の状況把握などに努め、現在、国有林野内の被災地復旧に向け対応を進めています。

昨年に限らず自然災害が多発する近年の状況を見ますと、先人たちが育てた利用期を迎えた人工林を適切に伐採し木材を活用しつつ、確実な植栽等健

全な森林づくりを継続して進めることが重要です。そして、人口減少・少子高齢化が進行する中で、新たな技術・研究成果を積極的に取り入れ、林業が作業の安全性の確保、軽労化、事業のさらなる効率化に取り組み、若い方々にも選択される産業となることが必要だと考え、事業を進める際には今後ともこの点を意識し進めていく考えです。

また、令和元年度からスタートした森林経営管理制度は、今後とも林業を営む上で私有林の抱える課題を解決する重要な制度であり、運用に当たって国有林としても市町村の皆さんを技術的な面からサポートできるところがあると考えておりますので、森林管理署・支署等に気軽に相談いただければと思います。

一方、「コロナ禍」がもたらした仕事の仕方、働き方の変化は、5G、AIを含めた次世代のICT（情報通信技術）

の活用によりさらに広がりを見せる可能性があり、観光ばかりでなく移住や最近関心の高まりを見せる仕事と休暇を両立するワーケーションなどにより、地方にとつて新たな人の流れを呼び込む機会となり得ます。国有林には、自然とふれあい、体験することのできるフィールド、リラクゼーションに適した場所が多くあり、このような流れをつかみ、活かす県や市町村の取り組みに加えていただければと考えております。

昨年の「コロナ禍」における業務運営も踏まえ、本年も国民の財産である国有林の管理経営を充実させ、地域に貢献できる取り組みを進めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、新しい年が皆様にとつて、健康で実り多き素晴らしい一年となりますことをお祈り申し上げます。



今年度の活動を振り返って

朝日庄内森林生態系保全センター

当センターは、朝日山地森林生態系保護地域の保全管理を中心に、森林環境教育等を行っています。保全管理や森林環境教育に当たっては、地域の関係団体（自治体、自然保護団体、山岳会、渓流釣り協議会、内水面漁協、地域住民等）と協議会を開催し、意見交換をしながら順応的な管理となるよう取り組んでいます。

朝日山地森林生態系保護地域の保全

本森林生態系保護地域は山形、新潟両県で約7万haが指定されており、山形県の約4万8千haが当センターの活動域となっています。保全管理に当たっては、保護林管理委員会地域部会の開催、ボランティア巡視員による巡視活動、モニタリング調査（委託調査）等を行っています。

○朝日山地森林生態系保護地域部会を開催

地域部会は、有識者、行政、自然保護団体等で構成され、本年度は5月に書面開催し、議事、意見照会・回答を行いました。議事は審議事項としてボランティア巡視員活動等の報告、モニタリング調査結果、報告事項として人工林の天然生林への誘導の取組、新設される駐車場等保全管理に関する事項を報告し、情報共有、意見交換を行いました。スノーモービル乗り入れ規制の周知徹底、人工林を

混交林化するための間伐の実施状況・計画、朝日山地の利用に影響する事業の情報共有等について、意見が出されました。

○ボランティア巡視員の活動

春季（6月）と秋季（11月）に巡視員会議を開催しました。登山者へのマナー啓発、森林生態系の保全管理に係る事項等広大な朝日山地の管理を行うために巡視員による巡視活動と報告はなくてはならないものです。

春季会議は、書面開催で行い、巡視活動方針・計画・マニュアル・活動報告書の説明を行い、モニタリング調査結果、保全管理活動の実施状況の報告等を行い、安全で効果的な巡視活動となるよう意識と情報の共有を行いました。他地域でのスノーモービル規制状況、二ホンシカ情報の共有、合同パトロール行程への要望等の意見が寄せられました。

○秋季会議は、11月に参加者数を縮小し対面で実施しました。巡視員の活動報告、合同パトロール報告、センターの活動報告を行い、野生イノシシのCSF感染対応について情報提供を行いました。巡視員からオオハシゴソウの駆除、マツノクロホシハチの被害状況、野生イノシシの分布状況等について、意見・情報提供がありました。

○朝日山地合同パトロール

巡視員等から提案のあった2コースで合同パトロールを実施しました。日暮沢～古寺山コース
9月中旬巡視員2名、環境省1名、東北局1名、センター3名で実施しました。小雨の中出発し、小朝日岳までの予定を古寺山に変更し往復しました。稜線上に達すると雄大な朝日山地の展望が開けました。急斜面ですが、歩道からの流水が森林を浸食している箇所も少なく良好でした。

・障子力岳周回コース
10月上旬巡視員1名、東北局2名、庄内署3名で実施しました。降雨はなかったものの始終強風が吹き付け、霧の中に紅葉が浮かび上がる山行となりました。綺麗に適

・日暮沢～古寺山コース

9月中旬巡視員2名、環境省1名、東北局1名、センター3名で実施しました。小雨の中出発し、小朝日岳までの予定を古寺山に変更し往復しました。稜線上に達すると雄大な朝日山地の展望が開けました。急斜面ですが、歩道からの流水が森林を浸食している箇所も少なく良好でした。

・障子力岳周回コース

10月上旬巡視員1名、東北局2名、庄内署3名で実施しました。降雨はなかったものの始終強風が吹き付け、霧の中に紅葉が浮かび上がる山行となりました。綺麗に適



紅葉シーズンでしたが霧の山行



歩道や森林の状態を確認

れた歩道を歩き約10時間の登山でした。立木の損傷等の問題行為はありませんでした。

○特定外来生物の防除

オオハシゴソウは強い繁殖力で在来植物を駆逐してしまつので、平成30年から保全国区域に侵入した群生の根茎除去作業を行っています。花で識別するため8～9月に実施していましたが翌年の再生数が多く、猛暑の重労働でした。本年は根茎への栄養蓄積前と考えられる5月中旬に地上部刈払い・根茎除去・無処理を比較する試験地を設定し、9月に成長量・再生数等を調査しました。

○無処理区は前年

9月に根茎処理をしており比較すると5月に根茎処理をすると再生株数・植生高ともに顕著に抑制効果があり



試験地設定 左から無処理区・根茎除去区・地上部刈払区

ました。

さらに、センター職員が巡視中に新たな生息地を発見し、根茎処理を行いました。生息状況から長年に渡り生息区域を拡大していないと推測され、森林に進入しない生息環境について注視していきます。また管状花がカモシカに食べられた（推定）跡があり、糞により種子が拡散しないか巡視を継続します。

○森林病害虫の防除

大朝日岳から延びる稜線上でハイマツを食害するマツノクロホシハチの被害状況の調査と駆除を平成23年から実施しています。9月29～30日に目視とドローンによる調査を行いました。大朝日岳は国立公園となっており、歩道から離れた箇所は調査ができないため、空撮により被害分布と経年変化を記録するため今回初めてドローンで撮影しました。本年はバッテリーと撮影区域を考慮し撮影高度を高くしたため、被害状況の把握には至りませんでした。次年度以降さらに有効に活用していきます。



被害箇所 - 空撮写真では判別できず

目視の調査では、本年は被害発生初期段階に相当すると思われる、軽微な被害でした。後日の巡視員の報告により、本年も大きな被害にはならなかったことが確認できました。

○その他の保全管理活動

・歩道の通行規制
歩行により森林が荒廃しないようにロープ設置等を行っています。

・スノーモービルの走行規制

月山山麓には、自主規制による「月山特別ルール」に基づき、乗入れ区域等が決められており、スノーモービラーの会事務局、山形県、環境省等と合同パトロールを行っています。

・二ホンジカの生息確認・情報共有

山形県では低密度状態から定着状態への移行期にあると推測されており、繁殖期のアコースティックモニタリング調査や越冬条件等の調査を行っています。

・登山者のマナー啓発

○人工林から天然生林への誘導
保全利用地域にある人工林の混交林化、天然生林化に効果的な更新補助作業を検証するため、刈払い等の有無を比較条件に試験地を設定し、山形大学農学部と協働し、

林床植生、低層木・中層木の成長調査を行っています。



風衝地にロープを張っています



登山者にマナーガイドを手渡し



山形大学生 中層木調査中

森林環境教育の取組

○朝日自然塾

関係団体と連携・協力し、小中学生の親子等を対象に自然や森林の恩恵を体感し自然のつぎあいを学ぶ体験活動型森林環境教育を行っています。

・みんなで歩こうタカタラウへの道 7月あさひ小学校

幻の魚タカタラウが住むと言われる大鳥池まで地元小学生が登山します。巡視員団体、庄内署のサポートのもと、励まし合って全員登山しました。小学生から講師に対し安全登山、植物・樹木、自然の説明に対する感謝の感想文をいただきました。



危険な箇所は講師がサポート

・プロが教えるイワナ釣り 7月8公宴

深流釣り・釣り堀・魚のさばき方・イワナの塩焼き・毛針作り、イワナのお話等ベテラン講師による盛り沢山のメニューがある人気プログラムです。



深流魚が釣れました

今年「コナ禍の影響で「かんじきトレッキング&メノウでアクセサリーづくり3月公募」、「カッチャバ湿原のトンボ観察&大井沢で「コナ博士6月公募」、「森に入ると森の営みを探そう9月」を中止しました。

朝日自然塾連絡協議会を開催し、関係団体の意見を頂きながら、プログラム等に工夫を重ね、多くの方に参加し満足していただけるよう引き続き取り組んでいきます。

○みどりの保育園

西荒瀬保育園は隣接する「遊々の森」で「みどりの保育園推進事業」を実施し、当センターは、きのこの駒打ち、クロマツ探検隊、松ぼっくりのツリー作りを支援していますが、本年は材料提供のみ行いました。

○あさひ小学校森林活動支援

地元あさひ小学校が森林生態系保護活動として行う森林整備活動を支援しています。事前学習で森林の働きや森林整備の必要性・方法を学んだあと、混交林化を進める箇所では人工林を伐倒し枝払いを行っています。



様になる腰つきで受け口作り

○地域イベントは全て中止になりました。
当センターの中心業務は保護林の保全管理となりますが、地域の関係団体の協力を得て、多くの人々が森林の大切さを感じ、親しみを覚える活動に繋がっていきたく思います。

美しい森林づくり

天正の滝自然公園と山女の森にて

秋田森林管理署湯沢支署

「天正の滝」でナラ枯れ予防

当支署管内には、自然豊かな東成瀬村を代表する景勝地「天正の滝」があります。名前は天正年間に発見されたことに由来し、落差20m以上の水量豊富な滝の姿は実に壮観で、周辺の森林と一体化し四季折々に美しい景観を作りだしています。

東成瀬村では「天正の滝自然公園」として周辺の施設整備を進めており、国有林でも森林の保護、自然観察や憩いの場及び地域振興と活性化に資することを目的に、平成三年に周囲の森林を「郷土の森」として設定し、保護活動に取り組んでいます。

天正の滝周辺の森林は樹齢75年生以上のブナを主とする広葉樹で構成されていますが、その中にはミズナラ等のナラ類も多く存在します。ナラ類については、近年全国的に被害が拡大している「ナラ枯れ」と呼ばれる伝染病により、集団枯損やそれによる景観等への悪影響が及ぼされるのが心配されています。そのため、当支署ではナラ枯れ予防として、天正の滝周辺の森林におけるミズナラの健全木への殺菌剤の注入（樹幹注入）を計画的に行っています。

令和2年については9月17日に職員6名が2班に分かれ、ミズナラ34本に樹幹注入を行いました。



作業後に天正の滝にて



樹幹注入作業の様子

作業は、まず木の太さに応じた数の注入孔を根元付近に開け、次にそこに殺菌剤を注入するという工程で行いました。ドリルで穴を開ける担当者、開けた穴にマーカー（竹串）を差し込んで表示する担当者、注入器での薬剤注入する担当で分担し、効率的に作業を終了することができました。

薬剤の効果は二年程であり、今後も定期的に樹幹注入が必要となりますが、この素晴らしい景勝地を後世に残すため、しっかりと地域との連携を図りつつ保護に務めていかなければとの思いを職員一同強くしました。

「山女の森」で育樹活動

当支署と役内・雄物川漁業協同組合（以下、漁協）は、湯沢市秋ノ宮役内山国有林内の1haを「社会貢献の森」とする協定を締結しています。「山女（ヤマメ）の森」と名付けられた当地では、例年漁協の主催による植栽・補植等の育樹イベントが行われています。

昨年6月1日にはブナの苗木の補植作業を実施しました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、漁協関係者、協力企業など子供を含む計44名が参加しました。

また、当支署からも支署長はじめ6名が安全指導等のサポート役に当たりました。

開会セレモニーのあと、1.5m程のブナの苗木を2〜3人で協力しながら、鍬で大きめに穴を掘り、植え付け、土を被せしっかりと踏み固めて植栽しました。



山女の森での作業の様子

子供たちも大人のサポートを受けながら頑張って植樹し、緑豊かなブナの森になるようお願いを込めながら一時間程で無事に補植を終了しました。



山女の森で記念写真

今年6月に下刈作業をメインとしたイベントの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でやむなく中止となりました。

漁協では、来年は是非とも行事を実施したいとの思いがあり、当支署としても新型コロナウイルスが早く落ち着くことを職員一同願うばかりです。

余談となりますが、この周辺地域には、映画「釣りキチ三平」のロケ地もあり、原作者である漫画家の矢口高雄さんが、地元銀行マン時代に4百人規模で開催された役内川鮎釣り大会で2回も優勝しているとのこと。

当支署と致しましては上流部の森林整備を適切に行い、全国に誇れる役内川の清流を守っていかねければと強く感じているところでです。



森のおはなし
— column —

林木遺伝資源の収集・保存について

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場 遺伝資源管理課 収集管理係長

井上 晃

1. はじめに

林木遺伝資源は、科学技術の発展に伴い、人類にとって多種多様かつ有益な素材の供給源として、ますます重要性が増大するものと考えられます。一方、環境の変化や天然林の減少などにより、林木遺伝資源は減少傾向にあります。そのため、利用上の重要度や保存の必要性、優先度を勘案しつつ、多様な遺伝資源を収集し、保存して後世へ継承することが求められています。

東北育種場では、林木遺伝資源の収集、保存を、林木育種センター及び全国の育種場（北海道育種場、関西育種場、九州育種場）と連携して行っています。

平成28年度から開始された森林総合研究所第4期中長期計画では、新需要等が期待できる有用樹種（主に広葉樹）、主要樹種（スギ、カラマツ等）の育種素材及び、希少遺伝資源（絶滅危惧種、天然記念物等）を対象に林木遺伝資源の収集、保存等を行っています。

林木遺伝資源の収集、保存には大きく分けて成体保存と生殖質保存の2つの方法があります。成体保存は、種子または穂木（枝）を収集し、実生（種まき）またはクローン増殖（さし木・つぎ木）により樹木として保存する方法です。生殖質保存は、種子・花粉の状態を収集、保存する方法です。

本記事では、今年度に東北森林管理局管内の天然林で実施した新需要等が期待できる有用広葉樹の収集・保存について紹介いたします。

2. 令和2年度の有用天然広葉樹の収集・保存

東北地方の天然林には、新需要が期待できる有用広葉樹が数多く蓄積しており、東北育種場ではこれらを収集し、新品種の開発等に用いるための林木遺伝資源として保存しています。

今年度は、2箇所の国有林でイタヤカエデ（写真-1）、キハダ（写真-2）、ブナ（写真-3）の3樹種の収集を行いました。これらの樹種は家具としての用途に加え、イタヤカエデは楽器など、ブナは合板などに加工されます。キハダは、樹皮に含まれている薬用成分が整腸剤などとして利用されており、さらなる利用が期待されています。

三八上北森林管理署管内の十和田湖近くにある幌内山国有林には「森の神」と呼ばれるブナの巨木があり、ブナやイタヤカエデが豊富に生育して

います。ここではイタヤカエデとブナの種子の収集を行いました。今年はブナの着果が良好で、比較的容易に種子を収集することができました。

米代東部森林管理署管内の十和田国有林には直径60cm以上の大きなキハダが生育しており、つぎ木による成体保存のための穂木を採取しました。イタヤカエデも場所によっては鈴なりに着果しており、効率よく種子を収集することができました。また、穂木の採取も並行して実施しました。

今回収集したイタヤカエデとキハダの穂木は、来春つぎ木を行い、東北育種場（岩手県滝沢市）内の遺伝資源保存園に植栽し、保存する予定です。また、イタヤカエデとブナの種子は林木育種センター（茨城県日立市）内のジーンバンク施設に保存されます。

広葉樹は一般に着果の豊凶が大きく、今年はブナ、イタヤカエデの着果に恵まれましたが、キハダは着果が少なく、穂木の採取のみの実施となりました。今後も、着果状況を確認しながら、収集・保存する数を充実させていきたいと考えております。

東北森林管理局並びに県、市町村等の関係機関におかれましては、林木遺伝資源の収集・保存の取組について、引き続きご理解・ご協力いただけますようお願い申し上げます。



写真-1 イタヤカエデ（種子）



写真-2 キハダ（穂木）



写真-3 ブナ（種子）



白神山地の水辺の道化師

—シノリガモ—

藤里森林生態系保全センター 専門官 有本 実

真冬の日本海の荒波を避けるように岩壁にたたずみ、時折パタパタ羽ばたき体をほぐす奇抜な模様のシノリガモ①。英名はハーレクイン・ダック、直訳すれば『道化師鴨』というのは、オスの派手な外見にちなんだものでしょう。和名を漢字で書くと『晨鴨』、晨とは夜明けや早朝を意味する言葉で、オスの体色を明け方の美しい空の色に見立てたのが名前の由来なのだとか。

冬鳥として毎年シベリア方面から主に関東地方以北に渡来し、海辺の岩礁帯で貝やカニ、小魚などを食べて越冬しますが②、波の穏やかな日にはちょっと沖合で他の海鳥達と一緒にプカプカ浮かんでいることも③。バードウォッチャーに人気の冬の使者ですが、じつは東北地方以北では一年中日本に留まり繁殖している地域があり、環境省のレッドリストで“絶滅のおそれのある地域個体群”に指定されています。1976年に白神山地の赤石川源流部でヒナ6羽を連れたメスが発見され、日本で初めて繁殖が確認されました。

白神山麓の海辺で無事冬を越したシノリガモ達は、新緑の季節になると雌雄それぞれパートナーを見つけながら、溪流の岩陰の営巣地を求めて川を遡上します。④の写真は小さく見づらいますが、左の2羽と右の2羽がそれぞれペアになっています。メスは茶色く控えめな印象ですが、頬の後ろの白丸模様は雌雄共通です⑤。この白丸を夜明けの太陽に見立てて『晨鴨』と名付けた…という説もあるようです。

6月下旬、世界遺産地域付近の追良瀬川源流部で、当年生まれの若いシノリガモを見つけました⑥。繁殖期間中は溪流で川虫などの昆虫類を、越冬期間中は海辺で魚介類を食べる本種が世代をつないでいるということは、白神山地の森・川・海の豊かな自然環境の連続性が確保されている証なのです。白神周辺に限らず、東北各地の冬の海では時折見かけますので、ぜひ一度この派手な道化師達を探してみてください。多少天気が悪くて海が荒れている日の漁港内が狙い目です。



①海辺の岩壁で羽ばたくオス



②岩礁帯の潮だまりに群れるオス



③ウミアイサ・オオセグロカモメと一緒に泳ぐオス



④新緑の追良瀬川を遡上する



⑤メス（左）の色彩は控えめな夫婦



⑥当年生まれの若鳥

国有林モニターからの便り①

国有林モニターに参加して

岩手県久慈市 障子口 豊



私は岩手県久慈市に住む障子口豊と申します。私は高齢者施設の管理栄養士という仕事に従事しています。私自身、便利な都市部のアパートに住んでおり、森林とは縁の薄い生活をしております。これまで森林に関心を寄せるのは、春先の花粉症の時期だけだったのではないかと思います。そんな私が国有林モニターに参加したきっかけは、久慈市の広報で募集の案内を見たことです。

私の本家は山間部にあり、広大な土地を所有しております。既に他界した祖父が育てたスギやケヤキ、ナラやマツが年輪を重ねて太くなり、収穫の時期を迎え

ております。しかし、山にたどり着くための橋は壊れかけ、大型車の進入は危険であること。伐採や運搬などにコストがかかること。あまりお金にはならず、使い道が決まらず未だ放置になっております。以前、我が家の敷地内の電話線に木が倒れかかっていることと、父と山に入り木を伐採した思い出があります。木というものは私が思っていた以上に重いもので、伐採した木がぶつかつたらケガでは済まない。伐採作業は私のような知識の無い、専用の道具も持っていない人間が行うのは、非常に危険であることを知りました。今後、祖先から受け継いだ土地を私が管理しなければなりません。私一人では広大な森林を管理することはできないのではないかと、国に返却した方が良いのではないかと悩んでおります。

国有林モニターの現地見学会参加を通じて、森林は単に木材の供給源としてだけではなく、生物や地球環境の保全、土砂災害防止、水源涵養あるいは文化やレクリエーション機能と様々な役割を

果たしていることを学びました。我が国の国土の約7割は森林であり、国有林が2割、民有林が5割であること。木材自給率は3割程度（近年上昇傾向ではあるが）であり、国産材の多くは活用されていない。林業従事者の高齢化と担い手不足、野生動物による食害、木材の輸入自由化による国産材の価格の低迷など様々な問題が重なってか、近所の森林は荒廃が目立つようになりました。私は、我が国の豊富な森林資源を活用されないことをとても勿体無いことだと思えます。林業の低コスト化だけでなく、付加価値の高い森林の利用方法、もっと多くの人に森林について関心をもってもらいたいと思うようになりました。また近年、集中豪雨が増え山地災害等が発生していることから、国有林・民有林の枠を越えた森林計画を考えていかなければならないわけがあります。

活用せず放置になっている我が家の土地を眺めこれからどうするか、漠然とした気持ちでいます。今後、先祖の残した森林を私はどう引き継いでいくのか。また引いては、我々の住む地域の森林にどう向き合っていくのか。皆さまとともに考えていきたいと思えます。

『林業という職業』

山形県新庄市 多田 千尋



国有林モニターからの便り②

私の家は、祖父から続く素材生産を行う林業会社でした。しかし、突然林業会社を辞めてしまったのを打ち明けられたのは5年前の事です。幼少期から「前は女だから林業はさせたくない」と言われ、身近でありながらどのような仕事をしているのか、全く知ることもなければ興味もありませんでした。

社会人となり、林業とはかけ離れた業種にて働いていました。

ある時、突然林業会社をたたんでしまったことを打ち明けられました。ずっと林業をするのだと思っていた私は、何も言えない程の驚きと自分は何も林業

という職業を知らず、また父が林業で働く姿を一度も見ることがなかった悲しさで心いたたまれない気持ちになりました。そこで初めて「林業」というのはどのような職業なのか興味を持ち、何か自分から出来ることはなかったのか考えました。一番に思ったのは、林業をしている父の姿を見たいと強く思いました。そのためには、何をすべきか：林業の世界に1から学びもう一度父が林業を出来るようにすることだと思いました。

思い立ったら即行動の私は林業研修生募集の応募を見つけ、すぐに働いていた仕事を辞め、林業研修生として林業の世界へ飛び込みました。素材生産の現場にて林業を始めて1年目は、山に入ったことがなく歩き方を知らず、伐採後の木の枝に躓き転倒するのは日常茶飯事。チェーンソーは、家の道具小屋で見たこととはあるものの触るのは初めてでこんなにも重く、エンジンをかけるだけでも疲れるのは、驚きでした。現場にて林業をする日々は、何一つ苦に思わず、林業が出来ることの嬉しさをいっぱい感じた。

半年が過ぎ、林業の素材生産現場の流れがわかるようになった頃、男性方との体力の違いや仕事量などで女性特有の健康課題において、悩むことが多くなりました。相談したくても林業をしている女性が周りにおらず、父が「林業をさせたくない」といった意味が分かりました。一度は、林業を志すのを諦めようと思った時期もありました。しかし、自分に足りないのは何か考えた際、林業の専門的知識等を学び現場管理などを行うことも林業の一つと気が付きました。林業を始めて約4年となりますが、今現在、林業学生として学んでいます。

最新の森林情報や伐倒技術の習得、高性能林業機械の実習などを行って来年度の春からは、林業事業体にて働きます。森林GISを活用したスマート林業の実施や私の住む山形県では、架線集材技術が車両系システムの導入により行われなくなり、今後急傾斜な現場が出てくることからスイングヤーダーやタワーヤーダの導入を学んだ知識を生かし進めていきたいです。

林業を学べば学ぶほど奥が深く面白いです。よりよい森林にするためにもこれから頑張っていきたいです。

国有林モニターからの便り③

豊かな森が広がる日本に

岩手県遠野市 福寄 順子



国有林モニターとなった私のもとに毎月届く資料を読む時間は、最新の情報に触れながら森林について考えを巡らせ、更に興味を掻き立てられる楽しい時間です。とりわけ、遺伝子解析によるクマの調査や指標植物等、専門的なコラムは様々な角度から森林の見方を教えてくれます。

千葉県からの移住者である私は、植生の違う東北の森林の美しさと力強さに惹きつけられています。今回現地見学会で訪れた十和田市のブナ林や、遠野市の琴畑溪流沿いの色づいた森の姿にもワクワクし心の中で歓声をあげていました。とりわけ印象に残っている

のは集水井です。近年日本で多発する土砂災害に、言い換えれば、集中豪雨に治山事業は対処し得るものなのか気になっていました。すぐそばの道路からもそれがあるとは分からない、人の目につかない地中に複雑な集水井システムが張り巡らされているとは思いませんでした。集水井を案内いただいた職員のお話には、はっとすることがありました。数十億年という地球史のスケールでみれば、斜面崩壊等は繰り返して発生してきた自然現象であるというお話です。ブナの極相林に身を置きながら、地球の時間軸と人間と森林との関わりについて思考が広がった瞬間でした。また、私の地元、遠野市の見学会では、地域の支署の業務を知ることから国有林がぐっと身近な存在になりました。林道の改良が路盤材にも及んでいることと、貴重なハルニレ林の存在は新たな発見です。緑の季節に再訪してみたいと思います。今回、様々な側面から国有林の森づくりを見ることができましたが、より多くの人にこのような機会が提供され、私たちの財産である森林への意識が深まればと思います。

私は今から18年前、岐阜県立森林文化アカデミーに社会人入学し、環境教育を専攻としながら、森林生態や林業、木材利用について学びました。今回、国有林モニターに応募したのは、当時の当たりとした日本林業の厳しい状況が、その後どうなっているのか、どの方向に向かっていくのかを知りたいという思いからでした。かつて、木を使い尽くし、近郊の森がげ山になったという江戸・明治時代、戦中・戦後の木材需要急増後の拡大造林、そして林業の低迷による放置林等、日本の森林は様々な変遷を経してきましたが、今、その蓄積量は増加を続けており、木材自給率も上昇しているとのこと。今後、国のリードにより、民有林を含め、林分に応じた森林管理により、豊かな森が広がる日本であること、そして、国産材の消費が推進され、持続可能な炭素循環社会の実現に近づくことを願っています。

さて、現在の私は、登山や植物・野鳥観察、山菜採り等、森の恵みを享受して楽しむのみです。認証紙や国産材製品の購入など「選択」する消費者として、少しでも森づくりや環境保全に貢献したいと心掛けていますが、今回のモニターへの参加をきっかけに、もう一歩踏み出した働きかけの方法を見つけたと思います。



森林官からの手紙

魅力たっぷり赤倉温泉

山形森林管理署最上支署 森林官 佐藤 拓人



赤倉スキー場安全祈願祭

4月から山形森林管理署最上支署 赤倉森林事務所に赴任しました佐藤と申します。初めての森林官業務ということで分からないことだらけですが、支署や周囲の森林官の方々に都度相談しながら何とかやっていくことができいております。

私の勤務する赤倉森林事務所は山形県最上町にあります。新庄市・尾花沢市・宮城県の大崎市に接する静かな町です。最上町はバイオマス事業に力を入れており、エネルギー利用目的で大面積の共用林野協定を最上支署と締結しています。最上町内の森林のうち約70%を国有林が占めていることから、国有林の働きが重要な地域であると言えます。

赤倉森林事務所が建っているのは観光地として栄えた赤倉温泉街の中です。近くには温泉旅館が何軒もあり、現場で汗をかいた後には日帰り温泉で疲れを癒すことも出来ます。

温泉街を抜けると赤倉スキー場があり、12月11日にはスキー場開き（安全祈願祭）が開催されました。イベントの開催時には

他に特筆すべき場所として、宮城県の県境にある堺田駅の隣にある「分水嶺」を紹介します。山から来る沢の流れがどちらの海に行くかの分岐点である分水嶺が平坦な



最上小国川ダム

斜面に全く雪が積もっておらず来賓の方も心配するほどでしたが、その2日後には一晩で一面真っ白に染まるほど積もりまして、現在はスキーをするにも全く問題ありません。スキー場内には夏でも営業・繁盛するおいしいラーメン屋さんもありますので、興味があればぜひお越しください。

また、赤倉管内では今年「最上小国川ダム」が完成し、8月に竣工式が行われました。東北地方では初となる治水専用の流水型ダムで、式典には山形県知事も出席しました。式典で振る舞われた「赤倉温泉ダムカレー」は最上町特産のアスパラガスをふんだんに使った緑色のカレーで、ダムを模した形が見た目にも楽しい一品。森林事務所付近にある食堂で土日限定メニューとして提供しております。



日本海と太平洋を分ける分水嶺

場所にあるのは全国的にも珍しく、さりげない分岐なのにその行く末がまったく異なる様子を見ていると考えさせられるものがあります。堺田駅から出た大通り沿いには松尾芭蕉が宿泊したと言われる「封人の家」もあり、個人的にかなり見どころある観光名所と感ずるんですが、基本お客さんは少なくひそかな穴場スポットです。もしかしたら今年はコロナ禍だからなのかもしれませんが、最上町はもともとPRしてあげても良いんじゃないかなと思います。

最後になりますが、森林事務所での仕事はやりがいがありとても楽しいです。現場でクマと遭遇したり、事務所の外壁の隙間にキイロスズメバチが巣を作ってしまったり大変なことも起きますが、特に山の中では日々新たな発見があり、自然から学ばせてもらっていると感じます。現在は山に入らず除雪に追われる毎日ですが、腰を痛めないよう気を付けつつ過ごしております。皆さまもご愛ください。



我が署の名所

平庭高原

— 日本最大規模の白樺美林 —

(岩手県久慈市・葛巻町)

三陸北部森林管理署久慈支署

岩手県の久慈市と葛巻町にまたがる平庭高原は、県立自然公園にも指定され、約30万本もある日本最大規模の白樺美林が有名です。

標高1,060mの平庭岳とその一帯にある高原では、春を告げるフクジュソウやミズバショウの花から始まり、サンカヨウやウメバチソウ、リンドウなど、四季折々の山野草を楽しむことができます。

特に、つづじヶ丘を中心としたレンゲツツジの花が見頃をむかえる6月上旬には、平庭高原つづじまつりが開催(※2020年は新型コロナウイルス拡大防止のため、中止)されており、白樺林をレンゲツツジの群落が朱色に染める中で楽しむ散策は、他ではなかなか味わうことができません。また、秋には黄金色に輝く白樺の葉が、周りにあるカエデなどの紅葉する木々と見事な景観をつくっており、下流にある久慈溪流の紅葉スポットと合わせて沢山の人が訪れています。

このほか、高原周辺には、日帰り入浴も楽しめる平庭山荘やパークゴルフ場、スキー場などの施設が整備されているほか、東北唯一の闘牛大会も開催(※2020年は、もみじ場所のみ開催【例年は4回】)されるなど、春夏秋冬、一年を通して大自然を満喫できる高原となっています。

三陸北部森林管理署久慈支署

〒0208-0001 岩手県久慈市夏井町12
TEL 050-316005605

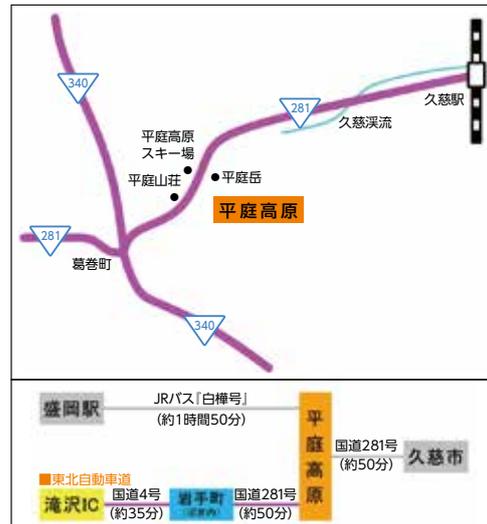
日本最大規模「白樺美林」



東北唯一「平庭闘牛大会」



日本の紅葉100選「久慈溪流」



👂 耳より情報

じぇじぇじぇ!!で有名な「あまちゃん」のロケ地となった久慈市では、今も朝・昼・夕方の時報チャイムにあの聞き慣れたメロディーが流れています。

また、久慈市は「いつか行きたい」ロケ地ランキング2020の第3位にも選ばれており、ドラマ「あまちゃん」や映画「星屑の町」のロケ地マップを片手に巡る旅もきっと楽しい思い出になると思います。

ロケ地マップは久慈市のホームページからご覧いただけます。

